

ヤンマー
キャステクノ

ヤンマーホールディングスグループのヤンマーキャステクノ（松江市、金井保博社長）松江事業部は、大型船用エンジンの製造部品を手がける。鑄造は原料の鉄スクラップを溶かす工程で、大量の二酸化炭素（CO₂）を排出するのが課題。同社は2023年までに溶解炉をすべて電気炉に転換。24年度から調達電力をすべて二酸化炭素（CO₂）フリー電力にし、本社工場全体のCO₂排出量を20年比約90%削減した。

20年以前は電気炉に加

モノづくり現場

生産革新・脱炭素社会への挑戦

4

電気炉・非化石電力を導入

鑄造の溶解工程CO₂ゼロ

え、キュボラ（溶解ークス、ガス回転炉は液も含め4基体制にした。炉）、ガス回転炉の3種化石油ガス（LPG）を類の設備を保有して使い、燃焼過程で大量のた。キュボラは燃料にCO₂を排出する。同社は23年までに使用量は約1921万5000キロワット時。24年度以降、中国電力から非化石電力の調達を始めたこと

人材育成のメリットも大きい。従来設備では溶解速度の調整や成分調整に熟練工を要した。炉ご

伝承しやすい環境の整備につながる」（岩崎良雄取締役）とする。

国内で電気炉への移行が進む中、「原材料の需要が集中している」

電気炉はキュボラが持つ精錬効果が薄いため、使用者が必要で、育成に時間がかかる。電気炉は材質の変更や溶解量の調整がしやすく、操炉技術の溶かすか」（同）などの

「質の悪い材料をいかに習得が比較的容易という。」「人手不足や作業者の高齢化が進む中、技術（火・木曜日に掲載）

（大阪・池知恵）

し、既存設備まだガスや油を燃料とする設備が残るが、30年までにカーボンニュートラル（温室効果ガス排出量を2基導入した。▲キュボラやガス回転炉を撤去し、新たに5基の電気炉を2基導入した。替える方針。

【事業所概要】▽所在地 松江市八幡町960-0852・37・1355▽主要生産品目 大型船舶用エンジン・陸用ディーゼルエンジン向けの鑄造部品▽年間CO₂排出量 約1万3274ト（23年度）